

代表質問※(要旨)

議員 知事が県総合計画で目指す「県民が日本一幸せな県」とはどのような県で、その時の魅力はどのような状況になっているのか。そして、何を最も大きな課題と捉え、この四年間で何を達成しようとしているのか。

知事 私は、県民が自身の夢に向かって挑戦を続けられることが、日本一幸せな県につながるものと考えている。さまざまなチャレンジに取り組むことにより、将来的には、本県の魅力が高まり、国内外から選ばれる茨城となると考えているが、その実現に向けた大きな課題は、急激に変化する社会への対応である。この四年間でさまざまな種をまき、挑戦していく意識を県全体に根付かせていきたい。



森田 悦男 議員
いばらき自民党
古河市選出
一括方式

県総合計画
「新しい茨城」への挑戦

第1回定例会の主な日程

平成31年第1回定例会は、以下の会期日程で開催されました。

- 2月27日(水) **本会議**
(開会、知事提出議案説明)
- 3月4日(月) **本会議**
5日(火) (代表質問・質疑)
- 3月6日(水) **本会議**
7日(木) (一般質問・質疑)
8日(金)
11日(月)
- 3月13日(水) **常任委員会**
14日(木)
- 3月18日(月) **本会議**
(予算関係議案常任委員長報告等)
- 3月19日(火) **予算特別委員会**
20日(水)
- 3月25日(月) **本会議**
(委員長報告、採決、閉会)

平成三十一年度予算編成方針と目指す事業推進

議員 新年度の予算について、知事は、どのような目的・目標をもって事業を推進していくのか。また、そのための予算を編成するに当たり、どのような考え方をもち臨んだのか。

知事 時代の変化に的確に対応し、これからの茨城を切り拓いていくため、平成三十年当予算で本県を将来にわたって発展させるさまざまな取り組みに着手した。新年度は、そこでもいた種から出た芽を、大きく育てる年として位置付け、事業の選択と集中の徹底を図り、新しい茨城づくりへの挑戦を加速させることとした。

小規模小中学校の希望的挑戦

議員 少子化の影響により、小中学校の統廃合が進んでいるが、少子化を、逆に今までできなかったことができるチャンスと捉え、小規模校の強みを生かした学校づくりが必要である。今後どのように小規模を生かした小中学校づくりに向けた希望的

挑戦をしていくのか。

教育長 きめ細かな指導が行いやすいことや、地域との連携を深めやすいなどの小規模校の強みを生かし、子どもたちを第一に考えた独自のカリキュラムや指導方法を工夫していくことが重要である。そのため、校長会などさまざまな機会を通して、情報発信を積極的に行うなど、質の高い教育環境の充実に向け引き続き支援していく。

「茨城県子ども虐待防止条例」を生かしての虐待撲滅推進

議員 どんな理屈や事情があろうと、子どもへの虐待は絶対許されるものではない。尊い、幼い命を守るため、虐待の撲滅に向け、「茨城県子ども虐待防止条例」に基づき、どのような取り組みを推進していくのか。

知事 四月一日の条例施行を契機に、福祉相談センターから独立して中央児童相談所を設置するとともに、各児童相談所に「子ども虐待対応課」を新設する。また、児童福祉司の国基準を超える配置など体制強化を図るとともに、さまざまな機会を捉え

●質問者

3月4日(月)

森田 悦男(いばらき自民党)
齋藤 英彰(県民フォーラム)

3月5日(火)

飯田 智男(自民県政クラブ)
高崎 進(公明党)

虐待防止の機運醸成を図るなど、虐待防止対策を推進していく。



虐待の撲滅に向けた取り組みを

本県も絡む東京青森間リニア鉄道構想

議員 本県の未来の子どもたちが夢と希望を与え、本県を含む東日本の真の復興とさらなる発展のため、長期的な視野でリニア新幹線の東北への延伸に向け、行動を起こすべきではないか。

知事 本県も含めた太平洋沿岸を北上するリニア鉄道が実現さ

「産業の育成・振興に関する調査特別委員会」を設置しました

本県の人口は、前年比で一万五千人も減少するという非常事態と言える状況にあります。そのような中、「活力があり、県民が日本一幸せな県」をつくるには、県内産業を育成・振興することで県の財政力を強化し、社会福祉や教育などを向上させていくしかありません。その意味で、産業の育成・振興は、本県の浮沈を握る最重要政策と言えます。

県議会としては、この最重要政策が具体的にどのように展開されていくのか注視し、県民の声や地域の実情を執行部に伝え、これらの政策が本県経済を支えている事業者や起業家、新規参入者などに幅広く行き渡るよう、また、県土の均衡ある発展を目指すため、県北など特に厳しい状況に置かれている地域にも効果が及ぶよう適切な提言をしていく必要があります。

そこで、「県内産業の育成や振興に関する諸方策の在り方」について調査・検討を行う「産業の育成・振興に関する調査特別委員会」を三月二十五日の本会議において設置しました。委員の構成は十五名で、次の通りです。

委員長	山岡 恒夫	委員	磯崎 達也
副委員長	下路 健次郎	委員	齋藤 英彰
委員	海野 透	委員	半村 登
委員	森田 悦男	委員	田村 けい子
委員	伊沢 勝徳	委員	沼田 和利
委員	石井 邦一	委員	山中 たい子
委員	鈴木 定幸	委員	中村 はやと
委員	岡田 拓也		

質問方式について

議員は次のいずれかの質問方式を選択できるようにしております。

- 一括方式
質問項目全てについて一括して質問し、一括して答弁を求めめる方式。
- 分割方式
質問項目ごとに分割して質問し、その都度、答弁を求めめる方式。

※【代表質問】…会派を代表して行う質問を代表質問といいます。茨城県議会の場合には、4人以上の会派が代表質問を行うことができます。なお、議員個人の立場で行う質問を一般質問といいます。